ArCS III 若手人材海外派遣プログラム

派遣支援 終了報告書

氏名： 松﨑倖太朗

対象となる取組みの名称
IPICS 2026 への参加
■ 派遣中の活動と成果

私は、2026 年 10 月 11 日から 16 日にかけてカナダ・バンフで開催された、4 年に一度のアイスコア国際学会「IPICS 2026」に参加しました。本学会には世界各国から約 300 名のアイスコア研究者が参加し、最新の研究成果の発表や活発な議論が行われました。

学会初日の 10 月 11 日には、主に若手研究者を対象とした ICYS（Ice Core Young Scientists）のワークショップに参加しました。本ワークショップは、世界各国の若手研究者間の交流を深め、将来的な共同研究につながるネットワーク構築を目的として開催されたものです。若手研究者と交流することで、互いの研究内容や研究環境について理解を深める貴重な機会となりました。

10 月 12 日から 16 日にかけては、口頭発表やポスター発表を通じて、研究成果が報告されました。私は 10 月 13 日（火）の午前に、「Detection of Mixed Particles of Black Carbon and Ammonium Sulfate in a High-Accumulation Dome Ice Core, Southeast Greenland」（日本語訳：グリーンランド南東部の高涵養量ドームアイスコアにおけるブラックカーボンと硫酸アンモニウムの混合粒子の検出）という題目でポスター発表を行いました。

発表では、想像以上に多くの研究者が私の研究に関心を示してくださり、聴衆が入れ代わり立ち代わり訪れる中で、様々な議論を交わすことができました。今回の学会では、アイスコアに含まれる個々の微粒子の形態や化学組成を詳細に分析した研究発表は、私が聴講・確認した範囲では非常に少なく、このような研究手法の独自性が、多くの研究者に関心を持っていただけた要因の一つではないかと考えています。

特に、アイスコアから微粒子を抽出するために用いた昇華法や研究の新規性に関する質問を多くいただきました。英語で専門的な質問に回答する際には、難しさを感じる場面もありましたが、積極的に説明と意見交換を行いました。こうした経験を通じて、研究内容を簡潔かつ明確に伝える英語でのコミュニケーション能力の重要性を再認識しました。

また、自身の研究と関連の深いアイスコア中の微粒子分析に関する発表を行った研究者に対して積極的に質問を行い、分析手法や研究成果の解釈などについて知見を深めるよう努めました。異なる研究手法や視点に触れることで、今後の研究を進める上で有益な示唆を得ることができました。

今回の学会で特に印象的だったのは、アイスコア研究分野を代表する著名な研究者だけでなく、博士課程の学生やポスドク研究員など、多くの若手研究者が参加していたことです。発表時間に限らず、休憩時間や食事の場でも研究に関する議論が活発に交わされており、参加者の研究に対する高い意欲と、国際的な研究交流の重要性を強く実感しました。

今回の派遣を通じて、自身の研究成果を海外の研究者に発信し、多様な視点から意見を得ることができました。今後は、学会で得られた知見や議論を自身の研究に反映させ、より深く考察していきたいと考えています。

※図表・写真等を含めて構いません。本様式を使用する場合は、分量の目安は 1～2 ページ程度です。